



白い花を咲かせるのに、実は黒い蕎麦。見た目は可憐だけど、中身は職人向きということでしょうか。

北海道のソバの作付面積は全国第1位。約4割のシェアを持ち、市町村別では1位幌加内町、2位深川市（主に多度志）、3位旭川市（主に江丹別）と北海道が独占し、収穫量も同じ順。主流の品種は、キタワセソバ^バと思われるが、たとえ同一種であっても土壌の状態、標高、昼夜の寒暖差、収穫時期、製粉技術、打ち方で味わいはかなり変わってくるのだそうです。特に気候は香りや甘みに影響し、土壌は風味、製粉はキメと香り立ち、挽きぐるみによって野趣に振れるか上品さに向かうか。やはりソバは職人向きのようなですね。



（南道北機械サービスの敷地の一角に建つ社屋と事務所内部。社屋の手前にある桁違いに大きい牽引用アタッチメント・カーゴが、本業が海外製の農業機械販売であることを物語っているように見えました。

大橋 泰史さん

株式会社N45ファーマーズ ― 代表取締役

北緯45度、日本最北の地で
キタワセソバの栽培に挑戦！
まもなく自社製粉もはじまります。



倉庫の奥に縦型に並んでいるのは、ソバの実用の乾燥機。製粉機が届き次第、ここに設置されます。



大橋さんが収穫した「キタワセソバ」の玄ソバ。

さて、今回は、豊富町で7年前からソバの栽培を研究し、令和4年に株式会社（農地所有適格法人）N45ファーマーズを設立し、日本最北の地で、キタワセソバ^バの本格的な栽培をはじめた大橋社長を訪ねました。

離農した農家さんの牧草地を 買い取ってソバ畑に

「通っていた地元の豊富高校の卒業が近づいても、将来どんな職種の仕事に就きたいかまでは想像できませんでした。偶然、中標津日新農機株式会社（コーンズ・エージー）さんに入ったことで、農業機械の販売とサービス（整備・修理・アフター）が天職のようになったような気がします。その後、3つの会社を渡り歩きましたが、一貫して農業機械

と整備士の勉強をさせてもらったことで、あれこれ道に迷わずスキルアップできたのかなと思います。

私の本業は、主に海外ブランドの大きな農業機械・産業機械の販売とサービスです。トラクターをはじめ耕作機械とアタッチメント、ホイローダーや自動操舵システムなどで、メーカー名で言うの特約店に指定されているドイツの「クラス」、フィンランドの「アバント」。他には国内の「（株）タカキタ」スノープロウなども若干取り扱っています。

そのノウハウを活かした6次産業化（生産・製造・加工・流通・販売・サービスを一体的に取り組み）を考えていたところ、ソバなら手がかからないだろうから、自分一人で

積土成山

私の信条

意味：少しの土でも、それを積み上げていけばやがては山になる。努力を積み重ねればいつか大きなことを成し遂げることができる。



一昨年末で豊富でソバを栽培していたのはN45ファーマーズだけでしたが、6件まで増殖中。豊富で生産されたソバを町内で「挽きたて打ちたて茹でたて」の3たてで食べられる、手打ちの体験場所もつくりたいとのこと。

できると畑を探していました。現在は農家でなくても農地所有法人であれば、農地を購入することができるのです。

私は農家さんの畑耕^おこしなど農作業の受託（コントラクター事業）も行っているのですが、町内の徳満地区で酪農業を営んでいたお客さんから『もう歳だし身体も動かなくなってきた。離農するから、あんな私の農地を買ってくれんかい』と言われ、早々にチャンスがめぐってきました。徳満の畑は牧草地でしたが、牛の飼料用にデントコーンを育てていたため土に地力があり、期待に胸が高鳴りました。

ところが1年目、かろうじてソバが1t穫れましたが、乾燥に失敗し収穫はゼロ。2年目はエゾ鹿に全部食べられて、やはりゼロ。惨憺^{さんたん}たるスタートでした。

ソバは手間がかからないというのは誤情報で、不具合のあった畑の排水作業、起伏を整え耕作し、エゾ鹿対策用の電柵も必ず設置しなければなりません。いちばん難しいのは湿気の管理で、湿害を失くす努力は怠れません。堆肥と緑肥で豊富な有機質を含んだ畑をつくり、少しずつ収量を増やしていきました。

また、豊富温泉地区の牧草地も取得し、徳満と合わせ現在は約50ha（東京ディズニーランド®の総面積に匹敵）まで拡張しました。そうし

て昨シーズンようやく12t穫れたところ。です。と言ってもそれはソバの総量であって、玄ソバの皮を剥いて選別し、製粉するとかなり減ります。一般的な目安は、総量22.5kgを製粉すると16kgになると言われています。今年は30tの収穫を目標に置いています」

自家製粉で6次化を図る

「ソバづくりに派手なものはない、もなく、一日一日コツコツとやるしかありません。『エゾ鹿の被害にあった』、『反収が落ちた』と嘆くのではなく、やることをやっていなかった結果として全部自分で受けとめなければなりません。悔いを残さないためにも日々の努力が大切です。苦しいことも多いですが、秋の収穫の喜びは形容しがたく、コンバインで刈っていくと、ダダダッっとソバが入っていく恵みの音にすべての苦労が洗い流されていきます。だからまた春の種播きも頑張れるのです。

収穫したソバの一部は稚内の春名農産で挽いてもらい、豊富温泉の老舗「川島旅館」さんと「すずパンCafe」さんでも採用され、おかげさまで高い評価を得ています。年末までには6次化に向けた製粉機も納品になる予定で、目下、春名さんから教えを乞うているところです。

目標は、豊富・宗谷も有力なソバ産地の仲間入りを果たすこと。その日を夢見て明日も畑で頑張ります」



風に撫でられながら揺れるソバ畑（豊富温泉）。もう一つの徳満の畑は、宮の台展望台から見ると壮観。写真をよく見ると、手前にエゾ鹿対策用の電柵で覆っていることが分かる。